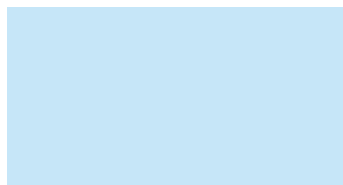
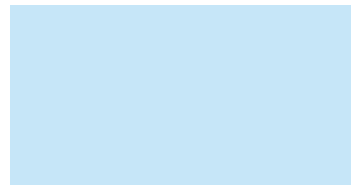
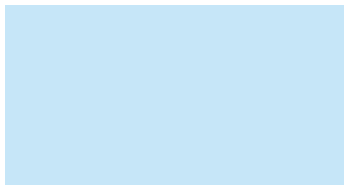
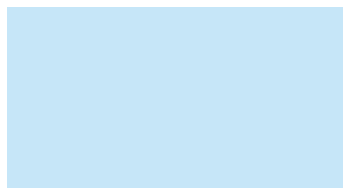




B U N K A Z O U K E I



P1

卒業研究選抜作品

P15

特色ある教育プログラム

P23

学外連携活動報告

ごあいさつ

文化学園大学造形学部は1965年に設置された文化女子大学短期大学部生活造形学科を前身とし、59年の歴史を重ね、今日に至っております。現在では、造形学部はデザイン・造形学科と建築・インテリア学科の2学科から構成されており、「新しい美と文化の創造」という建学の精神のもとに、時代の先を見据えて生活の質を向上させるモノづくり、コトづくりに貢献できる人材を育成する教育研究を展開しています。

本報告集は、造形学部の一年度の主だった教育活動を取りまとめたものであり、卒業年次生全員が4年間の学びの集大成として取り組む卒業研究を紹介する『卒業研究選抜作品』、都心に立地する本学造形学部ならではの『特色ある教育プログラム』、地域や産業界と連携して実践的に学ぶ『学外連携活動』、学外展などでの『学生の受賞』について報告させていただくものです。

多くの皆様にご覧いただき、ご意見、ご感想をいただいて、本学部の新たな発展につなげてまいりたく存じます。本学部の教育事業に日頃からお協力いただいております多くの方々から御礼申し上げますとともに、今後ともご指導、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

造形学部長 渡邊 秀俊

デザイン・造形学科

本学科では、1、2年次に基礎授業で造形力や表現力を磨き、3年次からは専門の3コースに別れて、グラフィックデザイン、生活用品や雑貨のデザイン、書籍の編集、3DCG、動画映像やアニメーション制作、ジュエリー・金工・七宝のデザイン等の制作に取り組めます。4年次の卒業研究では、学生各自がテーマを決めて1年間に渡って制作に取り組み、その成果発表として作品のプレゼンテーションと展示を行います。また本学科では、地域や産業界と連携した活動に注力し、活発な学外連携授業を行っています。この学修の成果をご紹介申し上げます。

建築・インテリア学科

本学科では、社会が直面する課題に対し、創造的かつ実践的な解決策を提案できる人材を育成しています。建築とインテリアに関する専門知識と技術を修得し、より快適で豊かな生活空間の創造を目指します。学生は3年次から専門性の高い設計課題に取り組み、4年次には自身の関心をもとに研究テーマを深め、実践的な作品や論文を通じてその成果を形にします。本書で紹介する学生たちの成果は、彼らが社会に貢献し、建築とインテリアの未来を切り拓いていく力を持つことの証です。本書にて、学生たちの取り組みの成果の一端を紹介させていただきます。

卒業研究選抜作品

卒業研究展は4年間の学びの集大成として、4年生全員が各自の研究テーマを設定し、1年かけて作品制作や論文執筆に取り組めます。その成果は本学内で展示され、また一部の作品はオンラインでも公開されます。掲載作品は各コースから数点選抜され、各コースの最も優れた作品1点に学長賞が授与されます。



E x c e l l e n t A n t h o l o g y

C	O	N	T	E	N	T	S
卒業研究選抜作品	1	特色ある教育プログラム	15	学外連携活動報告	23		
メディア映像クリエイションコース	2	キャリア形成教育科目	16	地域連携活動報告	24		
グラフィック・プロダクトデザインコース	4	イベント・学生交流	18	産学連携活動報告	28		
ジュエリー・メタルデザインコース	6	特色ある授業	20	学生の受賞	33		
インテリアデザインコース	8						
建築デザインコース	10						
卒業研究タイトル一覧	12						
卒業研究展2024年度の取り組み	14						



aarre

鈴木千瑛

書籍 120頁 上製本 糸かがり綴じ
240 × 240mm



表紙と本文



結婚式で使った大皿 (82歳・女性)



1mm タトゥー (25歳・女性)



ガラスのトトロ (23歳・男性)



カエルのおもちゃ (57歳・女性)



表紙：バージョン2



裏表紙：バージョン2



本文



本文

解説

本研究はあらゆる世代・性別・職種の人々に「自分の宝物」を尋ね撮影をし、それにまつわるエピソードを取材して一冊にまとめた写真集である。「他人からすれば大したことのないものだが、自分にとってはとても特別なもの」を答えてもらうことによって、その人の深い想いを聞くことができた。また宝物という抽象的なテーマに対する多様な解釈から、現代を生きる人々の価値観や人生観が浮かび上がる作品となっている。

プロセス

取材対象者は、あまり話したことがない人や初対面の人を選んだ。最初に宝物について尋ね、そのエピソードを聞いた後に撮影を行った。宝物に込められた想いや背景を写真で伝えることを目指し、単なる物撮りではなく、ストーリー性を意識した。文章作成においては、インタビュー内容を忠実に再現しつつ、「読者に読ませる」構成を心がけた。読点多用せず、句点で文章を区切ることで、丁寧にじっくりと読んでもらえるよう配慮した。

講評

人が心の奥にそっとしまっている宝物とは何か?その問いを下は8歳から上は102歳まで多種多様な人物に尋ね、その物語を写真と共に記録した。取材対象者たちは、宝物を単に大切だという理由では選ばない。掲載された60名の宝物は、他者への執着、消せない恨み、エゴ、自己証明、失った切なさなど、読者の想像を鮮やかに裏切る。読後は静かに人間の奥深さや愛おしさが立ち上がってくる、良質なビジュアル本となった。誠実で丹念な取材の賜物であり、高い評価に値する。(馬場磨貴)

MUGUET (ミュゲ)

—これは愛のおはなし—

小林 美月 書籍 144頁 無線綴じ くるみ製本
210 × 230 × 30mm

解説

この本は、日常に溢れる小さな幸せや愛について紹介している。私たちにとって身近な「9個の愛」と「あなたにとっての小さな幸せ」を記載。「9個の愛」では、親友、祖母、古着、自然、音楽、母国、仕事、ペット、先生と生徒への愛を取り上げている。様々な愛の種類からみなさんが自分なりの幸せに気づききっかけとなり優しさで溢れる日常になると嬉しく思う。



祖母の声のカセットテープ

「自然への愛」のページ



左「祖母への愛」のページ、右表紙

死ぬ前に翼を

野坂 睦斗

アニメーション/動画映像
1920 × 1080ピクセル
10分 30秒

『カラス』『走馬灯』

解説

一見すると脈絡のないように思える2本の短編を、ひとつのオムニバス作品としてまとめることで、あるテーマの想起を鑑賞者に促すアニメーションです。「走馬灯」「カラス」というストーリーも作画方法も異なる2本のなかに相反する部分、また共鳴するようなシーンを散りばめています。「観る人によって感想は違う」という、表現においては基本的であり当然とも思えるようなことを意識して制作しました。



『カラス』のワンシーン



『走馬灯』のワンシーン

shison_E

武内 ひかる 書籍 84頁 コブト製本
410 × 140mm

解説

この作品は「自身の人生を子孫に知ってもらおう」をテーマに、教科書や、歴史に残らなそうな平凡な自身の人生を、記憶のある3歳から20歳までまとめ、自身の子孫や後世の一部の人に向けたアートブックである。人生で経験したのほんの一部の瞬間を、実際の描写に少しファンタジックなテイストを加えたイラストで制作し、文章で覚えている限りのその時の細かい内容や、感じていたこと、未来への問いかけなどを記録した。



本文



小さな本なども制作



UFOを見た時のエピソードページ



コッペのアタマ

—アタマのカタチはコッペパン?!—

山口 きらり

フィギュア大 80 × 100 × 60mm、フィギュア小 40 × 50 × 30mm、
巾着 125 × 155mm



Web サイト



カプセルトイのPOP



コッペパンラインナップ



フィギュア用の巾着



3DCG データ

解説

アタマのカタチはコッペパン!?!をコンセプトにオリジナルキャラクター「コッペのアタマ」を考案し、そのグッズやwebサイトを制作した。3Dソフトを使用した立体フィギュアは、パンの照りや温かみを色やタッチで表現し、各キャラクターの性格に合わせた素材を挟むことで個性を表現した。また、プロモーションの一環としてWebサイトも制作し、新着情報やキャラクター紹介を掲載しキャラクターの魅力が伝わるようなページ構成を考えた。

プロセス

4年間の学びを活かし、普段から好きだったフィギュアやソフビを自分で作りたいという想いから、初めて3Dソフトに挑戦し、オリジナルキャラクターを立体化することに決めた。幼少期に食べた給食のコッペパンから着想を得たこのキャラクターは、大人には懐かしさを、子供には親しみやすさを感じてもらえることを意識して作り上げた。キャラクターを3Dソフトと3Dプリンターで立体化し、手に取りたくなるような魅力的な仕上がりを目指し制作した。

講評

コッペパンと聞くと、あのふっくらとした形を思い浮かべ、懐かしい気持ちになるのは私だけではないだろう。作者はそんな親しみのあるコッペパンに人格を与え、独自のユニークな視点をふんだんに詰め込んだ魅力的なキャラクターを生み出した。短期間で新たにソフトを習得し形にすることは簡単ではないが、持ち前の粘り強さと、豊かな創造力を糧にこの作品群を作り上げたことを評価したい。創作への真摯な姿勢と熱量を感じることが出来る作品だ。(黒沼 麻帆)

もう一度学びたくなる教材のデザイン

二宮 風歌

解説

高校時代までは勉強に対してマイナスな感情を抱いていたが、学ぶことの楽しさに大学生になって改めて気づいた。この経験から、私と同じ若い世代の人達が「もう一度学びたいな」と思える「学び直しのハードルを大きく下げるデザインの教材」を提案したいと考えた。従来の学び直し教材のデザインからは堅い印象を受けていたため、絵本やおもちゃのようなカラフルな配色と線の少ないオリジナルキャラクターのデザインで親しみやすさを持った教材のデザインを目指し制作した。



メイク時間に幸せをプラスするコスメの提案

—スイーツ×コスメブランド「bel dolce」のブランディングデザイン—

富樫 萌

解説

忙しい日々が続くと、メイクやコスメが好きな人でも、メイク自体が億劫になることがある。そのような人のために、毎日のメイク時間に、ワクワクや幸せをプラスできる、心ときめく可愛いコスメを作りたいと考え、まるで本物のスイーツのようなコスメを展開するコスメブランド「bel dolce」を提案した。20種類の定番商品に加え、童話「人魚姫」をモチーフにした限定品も展開し、豪華な作品に仕上げた。

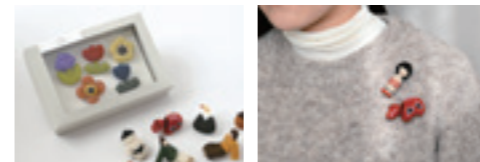


組み合わせを楽しむ羊毛フェルトブローチの提案

栗山 実悠

解説

忙しい日常生活の中で彩りが感じられない、代わり映えない毎日の繰り返しでどこか窮屈さや退屈さを感じている人に、身近に癒しを感じられるものを届けたいと思い、羊毛フェルトを使ったブローチを制作した。ストレスや緊張を和らげる羊毛フェルトの柔らかさや温もり、心地よく手に馴染む素材に癒されてほしい。日常に少しの彩りと遊び心を加え、「選ぶ・組み合わせる・身につける」という過程を愉しむことで、充実感や喜びを感じてもらいたいと思い制作した。





Psyche

一蝶をモチーフとした象嵌七宝によるアームジュエリーの制作—

小倉 彩加

透かし彫り・象嵌七宝／純銀・950銀・真鍮
190×80×85mm 他2点



解説

不老不死・自由・解放・美の象徴として考えられている蝶が腕にとまることで、人々に幸福や自由をもたらすようにと願いを込め、ギリシャ語で蝶や魂の意味を持つ「Psyche (プシュケ)」と名付けた。バングルの部分には蝶の模様と関連性を持たせる植物のモチーフをあしらった。蝶の羽の色合いは人がそれぞれ持つ違った美しさを表現し、身に着ける人の美しさを画一的なものから解放するよう思いを込めた。

プロセス

透かし彫りを施した純銀板と土台となる純銀板をろう付けし、蝶をデザインした象嵌七宝の胎を飛ばしているイメージに折り曲げ制作。18色の七宝釉薬を混色し施釉、焼成する。光沢が出るまで砥石で研磨し、羽の裏側にグラデーションで裏釉を施し、焼き艶仕上げとした。バングルは真鍮板に植物をモチーフにデザインした透かし彫りを施し研磨。蝶の胴体と羽をバングルにまとめてかした。

講評

課題で経験した糸鋸による透かし彫り技法に魅せられ研究制作を続けてきた。本作ではその技法によるジュエリーのデザインを探求し技術を遺憾なく発揮している。蝶のデザインも透かし彫りの応用である象嵌七宝で表現し全体の統一性を保っている。バングルとしては斬新な前腕部を覆うデザインだが実用性を加味したジュエリーとしての側面と鑑賞して楽しめるオブジェとしての側面が両立して秀逸な作品となっている。(春田幸彦)

fleur éternelle

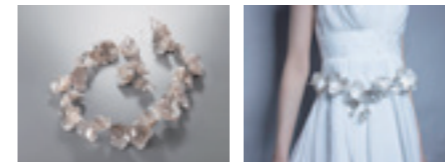
着用アレンジが可能なウェディングジュエリーの提案と制作

松本 悠那

彫金／950銀、淡水パール
60×1100×35mm

解説

芙蓉の花をモチーフにした、着用アレンジが可能なウェディングジュエリーを制作した。芙蓉の花言葉は「繊細な美」「しとやかな恋人」。芙蓉は女性の美を讃える花とされており、女性が人生で一番綺麗な瞬間は結婚の時なのではないかと考えた。女性が一番美しく見えるようにするためには、その人に合わせられるようにすることが必要だと考え、長さを変えた2本で調整できるようにした。



pooping dog

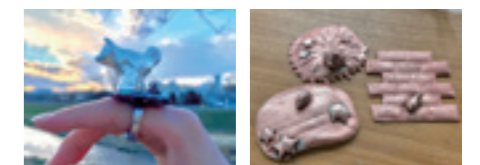
犬の日常をイメージしたリングの制作

片田 美琴

ロストワックス、打ち出し、硫化着色、
緑青仕上げ／925銀、銅
60×42×50mm

解説

「排泄をする犬」をコンセプトに制作したリング。私が愛犬と一緒に過ごす中で排泄をしている姿は生きている証として一番印象深く尊い。またとても愛らしい姿である。どの犬も人より生きる時間が短いが可能であればずっと一緒にいたい。いつか来るお別れの後も、この作品が常に見える位置にあることで愛犬を身近に感じたい。常にそばで愛犬を見守っていたいと思っている人に着用してもらえるよう制作した。



詩人の筐底

詩をモチーフとした彫金の箱の制作

金田 あさ美

透かし彫り、切嵌象嵌、はり合わせ、
彫金、煮色着色／銅、赤銅、純銀、
黒四分一、銀メッキ 50×105×105mm

解説

私が育った群馬県の詩人・萩原朔太郎の詩「猫」を主にモチーフとした香箱。「まつくろけの猫」が『よるの家根のうへ』で言う。「おわああ、ここの家の主人は病気で。」「猫」は他人、「病気」は他者との違いである。朔太郎を悩ませた「無為孤独」と「精神的苦痛」の中で生まれた「過失」の詩の世界に、私自身の過去の後悔を重ね表現した。言葉未満の孤独が、筐の底からじわりと煙る。





イドコロ

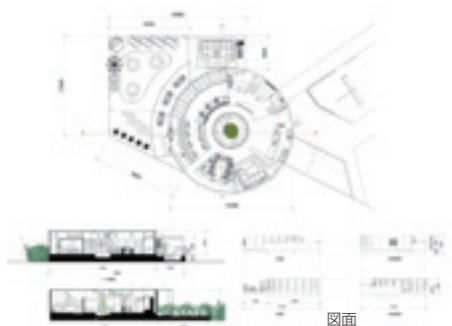
— 高大生のためのコワーキングスペースの提案 —

須田 晴香

〔制作〕 模型サイズ (縮尺 1/30)
841 × 1189 × 250mm



模型写真 (全体)



図面



施設内カフェ

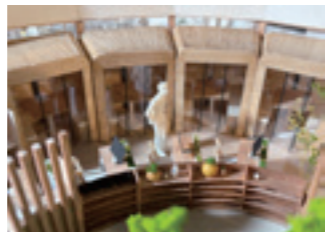
グループワークや複数人での勉強に適したミーティングルーム



中央部分に位置するコミュニケーションスペース



仕切りのある自習ブース



個別授業用の個室



講義やイベントを行うことも出来るフリースペース

解説

本研究では、高校生・大学生専用のコワーキングスペースを提案した。社会人向けが主流の現状に対し、学生が気軽に利用でき、学生同士の交流が可能な場所を設けることで、社会に貢献できると考えた。運営は学生アルバイトが担い、図書館併設型で低価格を実現。さらに、塾制度を導入し安定した運営を図る。この提案は、飲食店での長時間勉強に関する課題を解消し、学生にとって快適で充実した居場所を提供することを目指している。

プロセス

長時間滞在が禁止されているカフェ、会話が禁止されている図書館、高額な塾など、学生が自由に勉強や作業をすることができるスペースは少ないのが現状である。そこで、学生の学修活動に特化したコワーキングスペースの必要性を感じ、現状のコワーキングスペースの事例調査の結果を参考にして、高校生・大学生が相互につながり、学びを支えられる新しい形態のコワーキングスペースを提案した。

講評

インテリアデザインは、さまざまなストーリーが展開する舞台セットを創造することと似ている。また、ストーリーは舞台監督が構想したプログラムに沿って進行していく。本作品は、高校生と大学生という異なる年齢層の若者が互いに交わる「越境学修」という舞台セットを提案するとともに、学生という舞台監督が自ら運営していくプログラムの提案とも言えよう。こうした仕掛けが「新しい学び」をもたらすことが期待される作品である。(渡邊秀俊)

湘南 2WAY ライン

— 観光・通勤併用型電車のインテリアと運行システムの提案 —

赤堀 結衣菜 〔制作〕 290×1440×90mm

解説

昨今の湘南地域を取り巻くオーバートーリズムの問題と旅行の計画を立てる際の億劫さを解決すべく、観光客と沿線住民両方のための列車の運行システムと車内のインテリアデザインを提案した。平日は特急の通勤仕様、週末は観光地を周遊する観光モードにチェンジする 2WAY で利用できる列車の運行計画を立てた。車内は走行ルートの地域から「横浜」「鎌倉」「江ノ島」「箱根」をピックアップし、地域らしさを取り入れたインテリアデザインに仕上げた。



2+1列車両模型写真



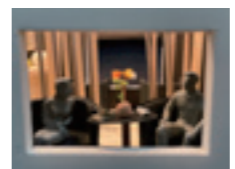
2+2列車両模型写真



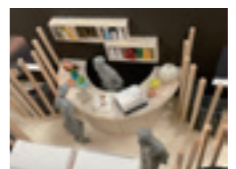
カフェ・ラウンジ車両①



カフェ・ラウンジ車両②



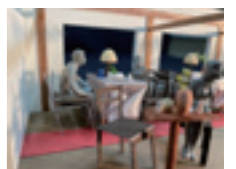
半個室車両①



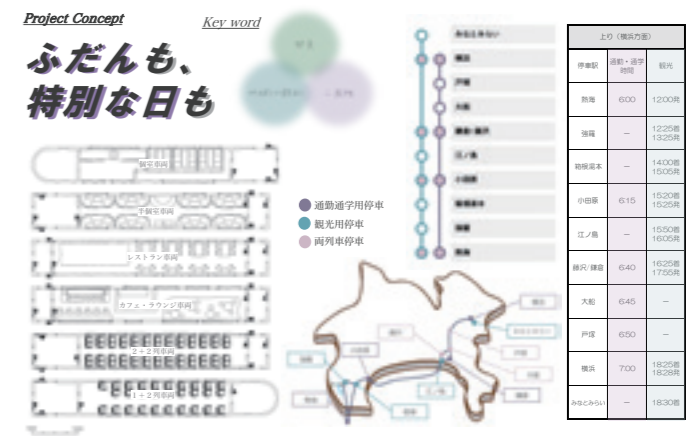
半個室車両②



個室車両



レストラン車両



全体写真



外観写真



スーパーマーケット内装写真



ワクワクコーナー周辺写真

生き生きの持続

— 地域との関わりを育てる施設提案 —

吉原 穂乃佳

〔制作〕 インテリア模型：700 × 900 × 250mm
敷地模型：594 × 420 × 100mm

解説

誰もが生きるために行う食事とそのためのお買い物を行うスーパーマーケットに注目し、日常的な買い物から地域交流へと繋がる場を提案する。「生き生き」と生きるには好奇心や関心を持つ事が重要である。買い物だけで完結させない動線や配置を工夫し、イベント情報を得られる「ワクワクコーナー」や「キッチンスペース」など訪れる度にコミュニティに引き込むような流れをデザインした。2階はコミュニティフロアとし、食を通じたイベント等で交流できる場とした。

日々、暮らしに融入る。

— 国登録有形文化財旧鎌倉市長谷子ども会館の利活用を伴う建築再生に関する研究 —

大谷 凜

〔制作〕 955 × 1190 × 440mm

解説

国登録有形文化財である旧鎌倉市長谷子ども会館を中心とした、再生された既存建物と増築部分が繋がり、融け入るような商業空間である。文化財建物は、宿泊施設のフロントとギャラリーにリノベーションし、増築部分は宿泊施設、カフェ、雑貨ショップ、キッズルーム、宿泊者専用のラウンジなど多様な機能を持つ。建物同士はすべて屋根で繋がっているため、一体感のある構成となっている。外観は、周囲の自然景観との調和を大切に、ガラス張りを中心としたデザインとした。内装には木材を多く使い、柔らかく温かみのある空間とした。



模型写真：商業施設を中庭から見た様子



模型写真：敷地全体を正面から見た様子



模型写真：カフェ内観



模型写真：キッズスペース内観

卒業研究タイトル一覧

● メディア映像クリエイションコース

足立 ひかる	Z世代が思う性格診断
飯田 歩奈	Utopia
池田 陽奈	異零観測
YU XINRU	BACK
遠藤 亜衣	愛について
WEN PEILUN	幻想ファンタジーシリーズ
川島 朋佳	Lunatic Lily
河田 佳莉	夜は僕に問いかける
川畑 萌泉	KAWA-E ー私が思う「カワイイ」についてー
木下 輝美佳	HIP ー外見思考がZ世代の若者の日常に与える影響ー
木村 結愛	ルミントラ ー銀座線をテーマにした香水のプロモーションー
小林 美月	MUGUET ーこれは愛のおはなしー
近藤 碧	ReParade ーパ・チナルメ・マーク!!ワクワクを聞ける4人組パフォーマンスグループー
紺野 真梨奈	まるもちれすとらん
酒井 優希	うさぎのコゼット ー目指せキャロット島ー
坂本 花音	Reverse
佐藤 恭輔	STRAY HUNTER
島本 信之介	Do you know society ?
庄司 彩乃	3人芝居 青春戯画
東海林 雅也	消えていく
鈴木 千瑛	aarre
鈴木 美香	私とあなたの6時間
鈴木 結希乃	EGOGRAMPASTA
武内 ひかる	shison_E
田村 桃杏	あと3回寝たら
辻川 真以	Your Destiny
鶴岡 翠	電動工具で武装せよ!
手嶋 柚帆	風光
外山 綾乃	ココと不思議な絵本
野坂 陸斗	死ぬ前に糞を
野田 彩華	Tip Cute
橋本 玲衣	MOU CHAT
浜田 真悟	モチモチのテーマ
樋口 隆之介	① Strange / ② RIVERSIDE T-shirt / ③ Season / ④ RIVERSIDE
福岡 亮太	それなりにうどんが好き
福田 美月	融解
松本 彩花	あなたの世界 私の世界
松本 悠花	言新社 創作誌辞典
宮崎 愛花	Étoile coeur
宮本 千春	母のウエディング
迎 万凜乃	空浮く海月展
山内 環	アステロへの燈
山崎 優衣	幽明の残り香
山本 拍門	箴戯 ー Shingi ー
吉田 叶夢	TRAVEL ZINE
渡部 椋森	otemoto

● グラフィック・プロダクトデザインコース

青山 月穂	日常の小さな不安や悩みに寄り添うキャラクターの提案
石崎 めい	Sugar Tailor ー女性のための新しいメイドカフェの提案ー
井上 心遥	美味しく食事ができるようになるサービスのデザイン ー離れて暮らす親子が共に「我が家の味」を作ることでもまれる対話を通してー
岩崎 穂乃佳	物語の世界に没れるミニドレッサーの制作
太田 真帆	十人十色 みんなちがってみんないい ー互いを認め合う十体の立体表現ー
大岡 美郷	オリジナルテーブルゲームのシナリオ作成及びプロモーションツールの制作
加古 翔梧	完食を促進するどんぶりとそれをを用いたラーメン店のブランディング
金子 遥香	オリジナル雑誌「OOへ行こう!」シリーズの制作
兼子 幸菜	個性的な家具が生みだす空間の提案
鎌田 沙音	気軽に演奏できるオブジェのような楽器のデザイン
河田 理玖	独白 ー希死念慮を抱く日常の絵画表現ー
菅野 日菜	ノスタルジーを感じさせるイラストの研究

表記は以下の順

[学生氏名・タイトル・サブタイトル (細字)]

	ーそれぞれの物語を1枚に閉じ込めドラマチックな表現を目指すー
神戸 ひかり	もっとかわいい麻雀セットの提案
君島 朋子	NEXT EXIT ー架空のゲームのプロモーションとキャラクターくじのデザインー
栗山 実悠	組み合わせを楽しむ羊毛フェルトブローチの提案
河野 知紗	ぬいぐるみを身につけるファッションアイテムの提案
後藤 風香	終末世界を巡るイラストレーション ーアンドロイド少女のおもいで旅行ー
紺野 安純	この世はどうして生まれたの? ー世界の国産み神話絵本ー
佐藤 まお	こどもごろもを思い出すきかけとなるかるたのデザイン
島田 峻佑	寺院のプロモーションデザイン ー謎解き寺院歩きー
神城 留奈	テラコッタでつくる女神像
杉山 慶悟	車好きのコミュニティーをつくるWEBサイトの提案
鈴木 春乃	観葉植物がより好きになる植物カード図鑑
鈴木 美紗央	猫が邪魔する生活雑貨
諏訪 百香	おこめをモチーフとしたカプセルトイレの提案
高橋 陽南	大人のキラキラグッズ提案
ZHANG HAOZHOU	留学生生活をテーマにしたCDジャケットデザインの製作
土屋 風海	私が開くわたしの回顧展 ー4年間の課題制作から見えてくるものー
都築 凜	千葉の魅力を神社仏閣の景色を通して伝える冊子のデザイン
富樫 萌	メイク時間に幸せをプラスするコスメの提案 ースイーツ×コスメブランド「bel dolce」のブランディングデザイナーー
豊川 蒼月	スチームバンクをテーマとしたオリジナルキャラクターの提案 ーミニチュアドール×オモ写ー
永田 空	生きていることについて気づきをもらはず絵本の制作
成田 明莉	数にズームイン! ー日常に潜む数の本ー
二宮 風歌	もう一度学びたくなる教材のデザイン
野口 美空	デニムリメイクのオブジェ制作
橋爪 梨沙	宇宙で暮らす「ふたり」に焦点を当てた、愛や信頼の形を表現する短編小説
橋本 日菜	日常をテーマにしたイラストとアニメーションの制作
花井 裕香	新人Vtuber「雨乃しはる」のキャラクターデザイン及び配信周辺におけるビジュアルデザインの提案
日枝 莉菜	オリジナルRPGゲームのデザイン制作
星川 未歩	飲食をテーマとした写真集
牧野 月香	ときめきをテーマにしたオリジナルイラストとぬいぐるみの制作
宮下 莉奈	ぬいぐるみの世界を体験できるカフェの提案
山口 きらり	パンをテーマにしたオリジナルキャラクターのグッズ制作とプロモーションの提案
山崎 聖来	灯りと素材で紡ぐおとぎ話 ー6つの物語をモチーフにした灯りのプロダクトデザイナーー
山中 冴笑	お酒や食事を少量ずつ楽しめるナチュラルカフェバーのブランディング
吉田 ふたば	日常に埋もれた自然を再確認するための研究 ー水面の光を使ってー
吉野 凜	推しとの生活を楽しむための等身大ぬいぐるみの提案
LIANG CHUANG	Neon Vortex : Maze of Gravity ー仮想ゲームのアートブックとブランディングデザイナーー
小川 優記奈	VOCALOIDを用いた音楽の認知度を高めるためのデザイン提案 ー楽曲をモチーフとした作品制作ー

● ジュエリー・メタルデザインコース

荒井 真生	脳宇宙 ー感情をイメージした七宝ブローチの制作ー
池田 花音	Spiderweb ーショルダージュエリーのデザインと制作ー
小倉 彩加	Psyche ー蝶をモチーフとした象嵌七宝によるアームジュエリーの制作ー
片田 美琴	pooping dog ー犬の日常をイメージしたリングの制作ー
金谷 翼左	奥無し魂送島の首飾り ー土着信仰から発想したジュエリーの制作ー
金田 あさ美	詩人の篋底 ー詩をモチーフとした彫金の箱の制作ー
鎌谷 桜妃	夢見草 ー有線七宝による壁面装飾ー
亀崎 美杜	Aerinary ー有線七宝による青い花をモチーフとしたペンダントの制作ー
京田 侑莉	Dress up your finger ーネイルチップと一体化したフィンガージュエリーの提案と制作ー
車田 有蘭	千鶴 ー折り鶴をモチーフとした透かし技法による置物の制作ー
島 千慧	As you like ー架空のいきものをイメージしたオブジェの制作ー
関口 真斗	花牌 ー花札をモチーフとしたリングの制作ー
曾根原 凜々	影 ーグリム童話をモチーフとしたペンダントトップ制作ー
高田 萌佳	REBELLION ー神話をテーマにしたアートジュエリーの制作ー
堤 友香	ism ー生命の美しさと人間の危うさをテーマとしたブローチの制作ー
納谷 桃果	毒心 ージャコウアゲハをモチーフとしたフェイスジュエリーの制作ー
野村 夏央	L_I_E ー生命をモチーフにした壁面装飾の制作ー

平田 純音	吉祥 ー藤をモチーフとした足を飾るジュエリーの提案と制作ー
星 すみれ	有刺にゃんこ ー怒りをテーマとしたオブジェの制作ー
松本 悠那	fleur éternelle ー着用アレンジが可能なウェディングジュエリーの提案と制作ー
間中 咲羽	freedom finger cover ー非日常を演出するジュエリーの提案と制作ー
三浦 茉絵	編む人 ー金属とテラコッタによる肖像の制作ー
南 結菜	桜梅桃李 ー和をテーマとしたヘッドホンの装飾を提案と制作ー
山崎 民生	ふりーだむ ー逃避をテーマにしたキーホルダーの制作ー
渡部 桜弥	Bon appétit ーフランス料理をモチーフとした七宝ブローチの制作ー

● インテリアデザインコース

須田 悠莉	生物に倣う ー生物の強さを活かしたインテリアの提案ー
佐藤 匠	アジアの「ユニークホテル」についての研究
高橋 聖来	子どもがアートを体験することの大切さ
田島 恭花	インテリアとは何か ー歴史・イメージ・教育ー
比嘉 純圭	観光地におけるピクトグラム ー浅草フィールドワークー
赤堀 結衣菜	湘南2WAYライン ー観光・通勤併用型電車のインテリアと運行システムの提案ー
井筒 歩生	大福縁 ー歴史と出合いが育てる平和島の未来ー
打越 璃菜	光と影で演出するパネルデザイン ー新宿メトロプロムナードー
王 慧琪	共鳴する温もり ー文化・温泉体験施設ー
加藤 咲良	没入できる展示表現の提案 ー文字×絵×空間の組み合わせによる魅せ方ー
川岸 璃音	宿泊施設のサイン計画によって利用者が受ける印象についての研究
小山 輝流	安らくバス停
関 希依	Let's sweat beautifully ー土浦市への人口流動を促す岩盤浴場の計画ー
仙庭 尚弥	坂と生きる ー車いすでつくる小さなまちー
都筑 龍馬	季節感と生活
富田 真恵	日本のホラー映画における恐怖シーンの空間構成要素に関する研究
中島 未絵	世界館 ー本のジャンルに合わせた読書空間ー
並木 菜奈	ふらっと ー相鉄線西谷駅近くにある地区センターのリノベーションー
根本 瑠奈	カウンターテーブルにおける居心地の研究 ー空間と感覚的要素の影響ー
萩原 凜	住まいにおける子供の生活空間に関する研究
濱崎 太智	音楽と映像で建築ファサードのデザインの可能性を広げる研究
林 花	外国人から見た「日本らしさ」のイメージに関する研究
福泉 麻奈	ファッションと店舗デザインに関する研究
船戸 ちなり	水族館から考える地域振興
PRISCILLA GIOVANNI	ハーモニーホーム ー認知症の人のためのグループホームー
歩 易凡	星から星へ 火星居住空間シミュレーション計画
堀内 美桜	レトロなインテリアコーディネート提案
宮下 樹	SNSでバスってる6畳の部屋の特徴と「垢抜け方法」の研究
山口 あやね	旅彩 (たひいろ) ーサブスクが提供する貸別荘の計画ー
弓場 雅美	映画化された小説と映像化作品に描かれる空間表現の差異に関する研究 ー「海街diary」を題材としてー

横野 璃音	反射を利用した照明デザイン ー照明を使った空間デザインー
渡辺 真帆	scene ー透明素材から引き出す暮らしの魅力ー
安藤 真心	人工島及び埋立地の歴史・現在・将来に関する研究
宇治 望香	床座を誘発する要因についての研究
煙上 麗	Luminode chair ー玄関空間を豊かにする椅子のデザインー
大谷 凜	日々、暮らしに融入。 ー国登録有形文化財旧鎌倉市長谷子ども会館の利活用を伴う建築再生に関する研究ー

ガセミ 芽利花	ひとやすみ ー公園の緑に包まれる心のシェアハウスー
金子 愛実	表裏 ー学びの場ー
小林 南津子	「独」発想の種子となる没入空間の提案
齋藤 奈々	書店と商業施設で住宅街にオアシスを
佐竹 華	書道文化の魅力発信ギャラリーの提案
佐藤 結女	住空間における年中行事の室礼の変容 ー幼少期と青年期の装飾規模と配置の実態調査を通してー
須田 晴香	イドコロ ー高大学生のためのコワーキングスペースの提案ー
谷井 愛美花	山水花 ー"しったけ"がつかう倶知安町ー
豊田 千笑	記憶を紡ぐ ー愛着を持てる街づくりを目的とした施設提案ー
野村 桃江	剥かれた過去を継ぐ ー文化学園日H館跡地再生計画ー
藤本 凜真	国産材の魅力を感じる体験型施設の提案
古郡 くるみ	結び和す (むすびやずす) ー誰もか幸せを結べる結婚の場ー
本多 舞香	陶酔 ーGiver & Taker in winery terminal ー
三浦 百恵	心がモフっととけるとき ー痛みやストレスを癒す場の提案ー

横尾 成美	生まれ変わる100年の故郷 ー地域再生による子どもの居場所ー
吉原 穂乃佳	生き生きの持続 ー地域とのかかわりを育てる施設提案ー
吉本 富	男性目線で考えるアラフォーショップ
LIU BOHAN	心をつなぐ・未来をつくる ー一人にやさしい旧精進小学校の再生計画ー

● 建築デザインコース

YI XUEWEI	出会う、喜ぶ、つなぐ ー旧大滝村立上尾小学校の再生による地域活性化に関する研究ー
猪狩 歩佳	ものがたりまいくえん
石井 大飛	「裏」仲見世通り ー半空中都市計画ー
衛藤 百加	多文化共生の実現へ向けた交流拠点の提案 ー横浜ベイエリアの歴史と発展ー
遠藤 圭輔	令和6年能登半島地震における避難生活の課題 ー発災後3ヶ月間の新聞記事による分析ー
大沢 紗菜	愛されるむだ空間の提案
小野原 海星	進熟の血液循環 ー新宿駅における混雑緩和の研究ー
金澤 未悠	不気味な街の三生 ー清里駅周辺の過去・現在・未来の姿ー
桐生 楓	今際の無何有郷 ー水の都「シン・エドシティ」化計画ー
小林 修輔	共に創る記憶・街が紡ぐ物語 ー栃木宿の復活を目的とした庁舎の再生に関する研究ー
小林 璃虹	透生 ー住宅街におけるスキマの提案ー
齋藤 舞奈	Sound waves ー音を楽しむための場所ー
佐藤 百華	商業施設の種類によるファサードのイメージについて
穴倉 秀磨	農業を中心とした台方地域再生施設計画
瀬畑 昇馬	湯煙工房 ー下町薫る新しい様式の入浴施設ー
孫 権浩	アティスの光 ー造形秩序が果たす雪国創生ー
田島 悠杏	FarchéAir ー建築とファッションの間ー
棕澤 花	雑誌「装苑」に掲載された非被写体としての建築に関する研究
ZHANG YONGJIAN	グリーン・リバーズ・センター ー森の未来像の展示・研究・啓蒙拠点ー
西村 琳大郎	スポーツ興行とまちづくりに関する研究
深井 優太	身体障がい者と知的障がい者の災害時支援体制 ー現状の課題とその解決に向けてー
松原 寧々	丘に芽吹く ー傾斜地に息づく暮らしの提案ー
松本 大飛	珊瑚影 ー廃墟として生きるー
山中 快	鯨環燈 ー温暖化抑制を目指す海上建築ー
LIU YAOLONG	いつでも何度でも ー鬼怒川温泉にあるホテルの廃墟再生計画ー
青木 澄佳	里山の時を再生する ー里山のくらしを繋げる建築としての器の再生に関する研究ー
石橋 みつき	受け継がれる住まい ー家具付き賃貸物件を扱う不動産事業に関する調査研究と提案ー
尾井川 輝	Manual chair ースケートボード再利用計画ー
大久保 瑞々花	屋根の下に人が集う ー旧新所沢バブルコの再生による地域の活性化に関する研究ー
小倉 大空	東京ディズニーリゾートにおける体験デザインの手法
河村 拓磨	登場人物としての建築 ー読み手の多様な想像を誘う空間描写の実践ー
川村 光希	応急仮設住宅の未来像に関する研究 ー室町時代から現代までの事例を通した分析ー
NGUYEN THANH TUYEN	FARM OF THE FUTURE ー地球温暖化と海面上昇に対応したサーキュラーエコノミーに関する研究ー
後藤 達希	人々の暮らしの変化に関する考察 ー過去から考える未来の住まいー
小林 高弥	"Love is in the Bin." ー自然・人工・焼捨ー
菅原 涼	選択の分岐点 一度きりの人生の記憶に残る建築 ー二子玉川に新しい結婚式場を造るー
須見 菜太	栃木市「蔵の街」の景観再生 ー蘇らせる小江戸の風景ー
仙石 優成	保守と脚色 ー建築による何気ない風景の可視化ー
園田 はる菜	麹町サンクチュアリ ー孤独を満喫する交響空間ー
染谷 玲那人	寿命を迎える超高齢リル群の未来像に関する研究 ー新宿区と渋谷区エリアを中心とした分析ー
滝上 力	対衆アンダーグラウンド ー道玄坂を揺るがす商業敵「中バコ」ー
館野 逸輝	銀幕の消失 ー映画館の価値を再考するー
ZHANG ANQI	守護者の森 ー自然に還り、新たな命を築く動物保護センターー
土屋 空未	日本における核シェルターの導入に関する考察 ースイス式核シェルターの日本への適用と課題ー
中山 倫花	青森の地元定着率を向上させるまちづくりに関する研究 ー若者を対象とした地域格差の意識調査ー
浜野 颯太	逃げの飾装 ー内装と服装のあいだを考えるー
平出 栄由佳	若者に向けた空き家問題の啓発に関する研究 ー空き家相続ゲームの提案ー
福田 妃菜	商店街で伸びる街 ー多摩M/レール延伸に伴うMMひまわり商店街のにぎわい創出に関する研究ー
松浦 晃大	避難空間におけるキャンプ用品適用の可能性 ー若者を対象とした寝床実験による評価ー
安田 奈央	うみべのおもかげ ー巡環を目的とした自然に倣う建築の創出に関する研究ー
山崎 陽美	犬と人の豊かな暮らしを追求した都心型集合住宅の提案
山田 稜太	線路は続くよ、いつまでも。 ー地産地消を目的とした廃線のリノベーションによる地域再生に関する研究ー

特色ある教育プログラム

卒業研究展 2024 年度の取り組み

第55回卒業研究展は2025年2月8日～10日に開催されました。卒業研究は学びの集大成として4年生が各自の研究テーマを設定し、1年かけて作品制作や論文執筆に取り組みます。成果は大学キャンパスで公開し多くの来場者にきていただきました。建築・インテリア学科は有志団体「びじょん」の1～3年生が展示の企画運営をし、デザイン・造形学科は映像作品鑑賞の会場を増やすなど意欲的な取り組みも行いました。成果の詳しい内容はオンラインでも公開していますので是非ご覧ください。



今年の文化学園



A190 での写真展



ジュエリー・メタルデザインコース展示 (スペース 21)



建築・インテリアデザイン学科展示 (18階)



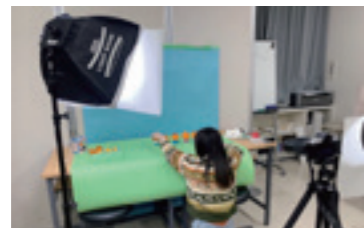
展示準備 (B201)



映像上映会場でのライブパフォーマンス



展示準備 (A201)



完成作品の写真撮影



会場でのプレゼンテーション (A201)



展示の撤収

文化学園大学では特色ある教育プログラムとして、学科や学年をこえて開講する集中授業「コラボレーション科目」のほか、イベントへの参加、企業や他大学との協働、伝統文化の再発見などグローバルな視野を広げ、国内外への理解を深める各種プログラム等を設けています。また学びの目的や目標を学生生活の中から考え、希望の将来像を具現化していくための「キャリア形成教育科目」を設け、企業での就業体験「インターンシップ」やキャンパスを出て様々な文化や価値観に触れる「コースセミナー」を授業として実施しています。造形学部で今年度実施したこれらの授業に加え、学外への成果発表や専門科目での幅広い学びを報告します。



Distinctive Educational Program

- **キャリア形成教育科目** P16
- **イベント・学生交流** P18
- **特色ある授業** P20

社会と「デザイン」のつながりを考えるコースセミナー

◎担当教員 グラフィック・プロダクト研究室
白井信、黒沼麻帆
◎取り組んだ学生
グラフィック・プロダクトデザインコース3年



活版印刷体験の様子

キャリアデザイン（展開編） コースセミナー

本コースでは印刷博物館の見学と、社会で活躍する卒業生のお話を聞く「ようこそグラフィック先輩！」の2つのプログラムを行いました。印刷博物館では活版印刷の体験や印刷の歴史について学びました。「ようこそグラフィック先輩！」では、実社会での体験談や就職活動について話を聞くことで、将来をより具体的に考える機会を得ました。



「ようこそグラフィック先輩！」の様子

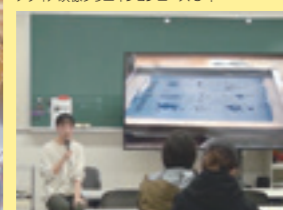
メディアの発達と仕事を展示と講演を通して考える

キャリアデザイン（展開編）コースセミナー

◎担当教員 メディア・映像研究室
岡部隆信、壺間行雄
◎取り組んだ学生
メディア映像クリエイションコース3年



広告の歴史の展示「アドミュージアム東京」(汐留)



印刷会社の仕事を紹介する卒業生



「国立映画アーカイブ」(京橋)

1日目は、江戸時代から現在までの広告の歴史が展示できる「アドミュージアム東京」(汐留)と、シナリオや映画カメラなどの実物を展示する日本の映画博物館「国立映画アーカイブ」(京橋)を見学。2日目は、現在のメディア業界を知るために、シルクスクリンなどを手がける印刷会社勤務と、フリーのディレクターとしてテレビ番組などを手がける卒業生による講演を行いました。

世界のデザインや身近な先輩の仕事からキャリアを構築する

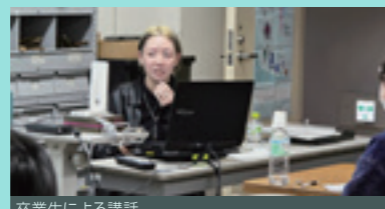
キャリアデザイン（展開編）コースセミナー

様々な物づくりが、社会に影響のあるコンテンツにおいてどのように生かされ、制作されているか理解を深めるため「ワーナーブラザーズスタジオツアー」に参加した。また、活躍する卒業生たちによる講話からジュエリーデザイン、制作、販売などの現状を知り、今後の就職活動や将来に対する考えを纏める動機づけをした。

◎担当教員 金工研究室
押山元子、成井美穂
◎取り組んだ学生 ジュエリー・
メタルデザインコース3年



ワーナーブラザーズスタジオ東京前での集合写真



卒業生による講話



見学の様子

企業での就業体験「インターンシップ」、学外に出て専門分野の知見を深める「コースセミナー」を通して専門性を活かした社会人としての将来像を自分ごととして具体的にイメージしていきます。

専門分野の理解を深め、キャリアデザインを具体化する

◎担当教員 建築・インテリア研究室 曾根里子・趙恩恩
◎取り組んだ学生 インテリアデザインコース3年



インテリアの国際見本市「JAPANTECH2024」の見学



業界分析とキャリア形成についてのディスカッション・発表



卒業生による講話

キャリアデザイン（展開編）コースセミナー

建築・インテリア業界の構造や最新動向、求められる能力などの理解を深め、自身のキャリアデザインを具体化することを目標に実施しました。1回目はインテリアの国際見本市 JAPANTECH2024 等を見学。2回目は業界分析と自身のキャリア形成についてディスカッション・発表を行うとともに、インテリアやデザイン業界で働く卒業生の講話を聴講しました。

場の魅力の発見

◎担当教員 建築・インテリア研究室 久木章江、奥村誠一
◎取り組んだ学生 建築デザインコース3年

キャリアデザイン（展開編）コースセミナー



セミナーハウス本館前で記念撮影



グループでの発表



キャリアデザインのディスカッション

建築デザインコースはこの授業では宿泊を伴うコースセミナーを実施しました。グループ毎に、八王子にある大学セミナーハウスの課題や魅力を見つけ出し、その課題解決の方法を提案しつつ、さらなる場の魅力を引き出す提案をおこないました。

実際の仕事を体験

◎担当教員 科目担当 丸茂みゆき
◎取り組んだ学生 造形学部3年

キャリアデザイン実践編（インターンシップ）

夏季休暇中に1~2週間の日程で実施しました。3年次の4月から書類選考・面談・事前教育の実施後、54名が27の企業様で具体的な研修に参加しました。研修後は大学での報告会で研修生および2年生に向けて成果の共有をしています。



研修報告会



研修の様子

特色ある教育プログラム | イベント・学生交流

Events / Students Exchange

文化祭自主展示

デザイン・造形学科の有志学生による企画展示



[Preparation]

◎取り組んだ学生 デザイン・造形学科の有志学生

4つのグループがエントリーし、各者各様創意を凝らした展示で来場者の方々にアピール致しました。絵画、彫刻、写真、ジュエリー、陶芸、服飾アクセサリー、その他など多岐にわたるジャンルの、授業課題外で制作した造形作品を中心に展示、及び一部販売も行いました。自主的に企画展示するという事で学生達にとって有意義な経験であったと共に彼らの後輩達にも今後に向けての良い道筋を示してもらえたのではないのでしょうか。



[21' ANIMA]



[ジュエリー・メタルデザインコース有志作品 (3、4年)]



[僕らの昼休み ver.2.5]

学外イベントへの参加やワークショップ開催を通して、日ごろの学びの成果や自主的に制作した作品を学外に発信し、交流を深めて互いの成長を確認します。学生たちは積極的に興味ある分野に参加し、活躍しています。

「BUKA × METRO」メトロ銀座ギャラリーでの展示



人通りの多い地下鉄構内のショーウィンドウギャラリーでの展示



展示の様子

◎担当教員 基礎造形研究室 加茂幸子、松村由樹子 ◎取り組んだ学生 絵画研究室 北岡竜行 ◎取り組んだ学生 デザイン・造形学科 3、4年



課外時間に大作にチャレンジする

デザイン・造形学科 有志

「BUKA × METRO」は公益財団法人メトロ文化財団の企画による、メトロ銀座ギャラリーでの展覧会です。課外時間や授業で制作したアート作品を2025年3月4日～4月11日の間展示し、多くの人に鑑賞してもらえる機会を得ました。(※展覧会写真は2024年の様子)

リニューアルデザインを提案した(株)白洋舎の商品が発売

◎担当教員 グラフィック・プロダクト研究室 白井悠、星野茂樹、山田拓矢、山崎裕子、黒沼麻帆 ◎取り組んだ学生 グラフィック・プロダクトデザインコース4年(2023年度)

2023年度「グラフィック・プロダクトデザインⅡB」



提案プレゼンの様子



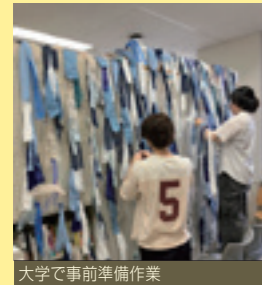
商品化したパッケージデザイン

グラフィック・プロダクトデザインコースは、2023年度に株式会社白洋舎の商品パッケージデザイン提案にコンペ形式で取り組みました。採用されたデザイン案は「クリーニングの白洋舎らしさ」が表現された雲のモチーフと、各商品の特徴が一目でわかるようなアイコンを採り入れたパッケージデザインです。

恋する本島プロジェクト

SEA THROUGH 制作

◎担当教員 建築・インテリア研究室 久木章江、渡辺裕子、岩塚一恵 ◎取り組んだ学生 大学院 建築・インテリア専修 修士1、2年(2024年度) 建築・インテリア学科4年(2024年度)



大学で事前準備作業



設置作業

瀬戸内海にある丸亀市の本島を舞台に、アートやデザインのかで地域活性化に貢献する取り組みを開始しました。「#恋する本島」というプロジェクト名は学生の発案によるもの。「また行きたい」「もっと知りたい」と思ってもらえる島になるようなアイデアを考え、建築・インテリア学科らしい取り組みをこれからも進めていく予定です。



完成した「SEA THROUGH」(山側)



完成した「SEA THROUGH」

「いいだ歯科クリニック」ポスターデザインコンペ



グランプリ 二宮風歌(グラフィック・プロダクトデザインコース4年)

学外とのコラボレーション

◎担当教員 グラフィック・プロダクト研究室 山田拓矢、黒沼麻帆 ◎取り組んだ学生 グラフィック・プロダクトデザインコース3、4年

新宿クイントビル2F「いいだ歯科クリニック」とグラフィック・プロダクトデザインコースとのコラボ企画「いいだ歯科クリニック」ポスターデザインコンペが行われました。6点の採用作品は新宿文化クイントビル緑道照明付きポスターラックに年間を通して掲示されました。

インターカレッジ・アニメーションフェスティバル

アニメクリエイション、卒業研究



プログラム上映後、壇上に呼ばれて挨拶をしました

美術系大学・専門学校の学生作品を上映するアニメーション映画祭「インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル(ICA)2024」(国立新美術館3F講堂・研修室/9月26日～29日)に参加しました。昨年度の卒業研究作品と、3年生の授業課題作品からセレクトして上映しました。

特色ある教育プログラム | 特色ある授業

Distinctive Educational Program

プレゼミ

インテリアデザイン演習Ⅱ、建築デザイン演習Ⅱ

プレゼミでは建築・インテリア学科の3年生が次年度の卒業研究に向けて各指導教員の課した課題に取り組みます。内容は様々ですが課題の発見につながるような校外学習や学外連携などもあります。



卒業生の案内で担当した集合住宅を見学



日本橋三越本店を見学



他大との合同ゼミ 国士舘大学にて

◎担当教員
建築・インテリア研究室
◎取り組んだ学生
インテリアデザインコース、建築デザインコース 3年

応用制作で公募展にチャレンジ!

テキスタイルワークBⅡ

テキスタイルワークBIで学んだ染織技法からの応用制作です。昨年度は4名の作品が東京都美術館や東京ビッグサイトに展示されました。(P.34で紹介)



フェルト作品を制作中



裂織のタペストリー



型染訪問着の引染

◎担当教員 染織研究室
岡本泰子、瀬藤貴史、森田和子、
遠藤樹、佐藤百合子(非常勤講師)
◎取り組んだ学生
デザイン・造形学科 3年

環境×リサイクル銀から生み出すジュエリー

銀粘土によるジュエリーの制作

◎担当教員 金工研究室 押山元子、春田幸彦、成井美穂、
藤澤英恵、水谷奈央、相田化学工業株式会社
◎取り組んだ学生
造形学部、国際文化学部 1~3年



文化祭展示作品



受賞者とともに



授業風景

リサイクル銀からアートクレイシルバーを開発した相田化学工業株式会社とSDGsを踏まえたコラボレーション授業として継続しています。第15回のテーマは「未来」とし、若い感性から生み出されるフレッシュなジュエリーの提案を目指し、制作しました。

学部・学科で共通して受講できる専門教育科目では、社会との繋がりや伝統技法の再発見、素材の探求など、デザインの幅広い分野に視野を広げ、多様な表現方法と基礎力を養います。「コラボレーション授業」は学部・学科・学年を越えて行われるユニークな授業です。

3DCGの基礎を学ぶ

ムービークリエイション演習

◎担当教員 メディア・映像研究室 松尾隆
◎取り組んだ学生 デザイン・造形学科 3年



部屋の制作課題

本授業では業界で広く使われている Autodesk 社の Maya を中心に3DCG制作の技術と知識を初歩から学ぶことができます。マスターすることが難しいといわれている3DCG技術ですがモデリング、テクスチャ、アニメーション、レンダリングといった制作フローの基本操作から技術用語の理解、自分の作品制作へとつなげる応用力などをステップバイステップで着実に身に付けることができます。



授業風景

株式会社伊藤園との産学連携授業



ベスト提案賞に喜ぶAグループ

グラフィック・プロダクトデザインIIA

◎担当教員
グラフィック・プロダクト研究室
白井高、山田拓矢、山崎裕子、吉川ちひろ、黒沼麻帆
◎取り組んだ学生
グラフィック・プロダクトデザインコース 4年

株式会社伊藤園の「茶殻」を有効活用するアップサイクルの取組み「茶殻リサイクルシステム」の認知向上、広報をテーマにグラフィック・プロダクトデザインコースの4年生が6グループに分かれデザイン提案を行いました。外部企業と連携をとりながら行う半期の授業では、実社会におけるデザインについて考え、グループワークを通して基本的なデザインフローを体験する機会を得ました。



プレゼンテーションの様子



新生活を支える茶殻雑貨シリーズのパッケージ提案

自作の陶タイルで制作したモザイクアート



「さんぽ」



「tools」



「5つの大好物」

アートワークA

◎担当教員 絵画研究室 安高信一、嘉松聡、北岡竜行 ◎取り組んだ学生
基礎造形研究室 澤田志功、加茂幸子 デザイン・造形学科 2年

各自が考案した下絵をもとに陶タイルを作り、それを使用してモザイク画を制作する授業です。制作過程では、新たな表現形式に取り組み、平面、立体それぞれの見地から創意工夫すると共にその素材を通して釉薬の使用法、特性についても学びます。

繰り返し×色彩で広がるデザインの可能性を探る

◎担当教員 造形色彩研究室 七里真代、梅田祐子 (非常勤講師) ◎取り組んだ学生 デザイン・造形学科 1年

基礎デザインB



完成作品



制作風景

構図やリズム、形態などデザインの基礎を学びながら、リピート表現を活用して画面に広がりや動きを与える方法を探ります。さらにカラーバリエーションを加えることで、色彩がもたらすイメージの変化や新たな表現の可能性を体感し、視覚表現の幅を広げます。

シリコン型取りのプロセスを学びオリジナルオブジェを制作

立体基礎B

◎担当教員 基礎造形研究室 澤田志功、加茂幸子、松村由樹子、松永ゆみ (非常勤講師)、宇津木千尋 (非常勤講師)
◎取り組んだ学生 デザイン・造形学科 1年



液体のシリコンを流し込み硬化を待つ



シリコン型は複数回型取りできる

石膏ブロックを削り制作したオブジェをシリコン樹脂で型取りし、そこに水溶性樹脂(ジェスモナイト)を流し込んで複製を制作します。この授業では立体造形に重要な型取り技術を学び、様々な素材の性質と加工法を体験します。

実際の空間をイメージした障子の組子デザイン

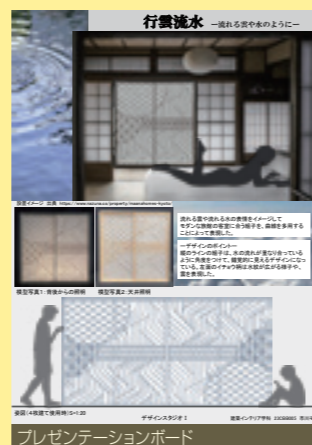
デザインスタジオI

◎担当教員 建築・インテリア研究室 曾根里子、谷口久美子
◎取り組んだ学生 建築・インテリア学科 1年



プレゼンテーションの様子

伝統的な和の空間における障子の役割や効果を学び、現代の空間で使用する障子をデザインする課題です。実際の大きさをイメージしながら1/5の模型を制作、光の状態で見え方が異なることも確認します。設置場所や使用する場面を想定してプレゼンテーションシートにまとめました。



プレゼンテーションボード

地域社会とのつながりや産業界との共同活動など、学外との連携も大学の重要な社会的役割です。地域社会に息づく文化や産業を活性化させる作業を通じ、大学で学んでいる知識を実践する活動は学生の社会的視野を拡大してくれます。また産業界とのコラボレーションは、実社会で必要とされる多岐にわたる社会的配慮やコミュニケーションの重要性を肌で学ぶ絶好の機会です。今年度も新しい取り組みを含め、さまざまな学外連携活動を以下に報告します。



External Cooperation

● 地域連携活動報告 Regional Alliances

- 01 東京の木“多摩産材”を知る・触れる・広げるプロジェクト [建築・インテリア研究室 丸茂他]
- 02 長野県須坂市における古民家再生プロジェクト [建築・インテリア研究室 渡邊(裕)他]
- 03 新宿区 中井・落合活性化プロジェクト「染の小道」 [染織研究室 瀬藤他]
- 04 重要無形民俗文化財 相馬野馬追の旗指物制作について [染織研究室 瀬藤他]

● 産学連携活動報告 Academia-Industry Cooperation

- 05 プロの役者や声優を起用！オリジナルムービーコンテンツの企画・制作 [メディア・映像研究室 昼間他]
- 06 第17回 学生ネクタイコラボレーション展 [染織研究室 岡本他]
- 07 デコプラインドコンペティション [建築・インテリア研究室 曾根他]

01 東京の木“多摩産材”を知る・触れる・広げるプロジェクト

「インテリアデザイン演習Ⅲ」における家具・インテリア小物のデザインと制作

■ 建築・インテリア研究室 丸茂みゆき、曾根里子、菊池光義（非常勤講師）
参加学生：建築・インテリア学科 インテリアデザインコース4年 55名



多摩エリア見学（木材加工の中嶋材木店）



多摩エリア見学（木材センター）



多摩産材活用事例の小田急線「参宮橋駅」見学

1. 事業概要

東京都あきる野市「秋川木材協同組合」との取り組みであり、公益財団法人東京都農林水産振興財団からもご協力を得て「木に触れてデザイン・制作」し「一般の人に東京の木を身近に感じてもらうため」の企画です。卒業後に建築・インテリア業界に進む学生が知識だけではなく深い理解を得ることを目的にし、さらに「地産池消、循環型生活」の視点から東京以外の地域や企業の取り組みも調べることで広く理解しながら進めています。

今年は TOKYO MOKUNAVI（とうきょうの木 魅力発信拠点）の企画「学校連携 とうきょうの木 学び場プロジェクト」に応募して採択されたことから、学生が使用する多摩産材の提供を受けました。制作から展示までの様子を取材していただき、学生が自分の言葉で説明することで理解がさらに深まる企画となりました。

2. 今年度の取り組みと成果

①多摩エリアおよび「参宮橋駅」多摩産材活用事例の見学：多摩エリアへは新宿からバスで向かい、木材競りの「多摩木材センター」、木材加工の「中嶋材木店」、多摩産材活用の「温浴施設」を見学し、現地の方から木材の現状について説明を受けました。また大学から徒歩10分の場所にある「参宮橋駅」は多摩産材でリニューアルされていることから見学をさせていただきました。実際の活用例として木

材の腐食やデザインとして綺麗におさめた工夫等を小田急電鉄株式会社工事部の方からレクチャーをうけました。

②デザイン制作と取材：カット・接着・磨きの加工体験をして香りなども体感した上でデザインを開始。テーマは「多摩産材に興味を持つきっかけ」としてそれぞれがクライアントを設定して進めます。「スケッチ→モデル作成→CAD図面作成→制作」の手順で行い成果は実物かCG表現の選択をして報告書にまとめました。この過程で TOKYO MOKUNAVI から複数回取材を受け制作から講評会まで web 掲載していただきました。

③学外展示と公表：TOKYO MOKUNAVI の「学び場プロジェクト」の成果として新宿リビングデザインセンター OZONE 内の2か所で10月の2週間、作品展示の場を設けていただきました。展示の様子も取材を受け web の取り上げにより多摩産材を紹介しながら授業について評価を得ることもできました。

3. 事業の評価と今後の展望等

この授業ではデザイン制作する前に見学や国産材についてまとめるレポートを課しています。普段の課題は「自分が作りたいものを形にする」と捉えている学生も多いため、レポートによって社会状況と問題点を把握した上で考えを形にして解決を探るのは難しい工程の様です。しかし授業では「共同作業により解決していく」を推奨したためグループ制作が多くなりました。そのため一人では解決できない事を克服できる喜びを感じた人が多かったようです。

取材によるインタビューでは「身近な問題に気が付いていなかった、良い勉強の機会だった」「これから自分が関わる仕事に大いに役立った」「東京にも自然があり、木が身近にあることの心地よさを伝えたい」と答えているグループが多く成果は高かったようです。実際の材料に触れて材料の特質を生かす体験は連携授業で得られる大きな点であることから今後もこの機会を生かせるように計画していきたいと考えています。



制作風景



連携先が参加した講評会でプレゼンテーション



講評会で連携先からのコメントをもらう



新宿リビングデザインセンター OZONE 展示風景



新宿リビングデザインセンター OZONE 取材の様子



新宿リビングデザインセンター OZONE 展示風景



制作中心の様子

制作中心の様子
制作中心の様子
制作中心の様子
制作中心の様子
制作中心の様子
制作中心の様子
制作中心の様子
制作中心の様子
制作中心の様子
制作中心の様子

02 長野県須坂市における古民家再生プロジェクト

■ 渡邊裕子・高橋正樹（建築・インテリア研究室）、牧野昇（メディア・映像研究室）、北岡竜行（絵画研究室）、佐藤百合子（本学非常勤講師）、井上遙子（アトリエノット）、伊藤内雄・田邊雄一・堀川卓哉（東京工科大学）



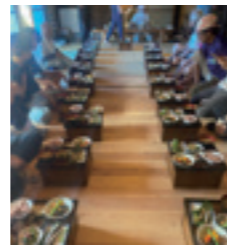
ワークショップ（和紙に折り加工を施す）



古民家改修（鏝絵制作）



完成した照明器具



箱膳を囲んだ会食



恒例の記念撮影

1. 事業概要

長野県須坂市仁礼に建つ古民家を拠点に、古民家所有者、須坂市及び地元企業、近隣住民の協力をのもと、「現代社会に問われる新たなくらしのあり方を求めて…」をキャッチコピーに活動を続けて15年目を迎えた。毎年、夏季休暇中に有志の学生達と古民家で自炊し生活を共にしながら、古民家改修・ワークショップ・地域資源活用プログラムを遂行している。

2. 今年度の活動

- ① **古民家改修** 土壁塗りや床貼りを施したまま数年間放置していた2階小屋裏に、鏝絵（漆喰を用いて作られるレリーフ）を制作し設置した。指導は土壁塗りの際にもお世話になった地元の左官職人の方にお願ひし、事前に漆喰を下塗りしたフレームに学生がデザインした鏝絵を描き彩色を施した。学生たちは、最初は鏝板から鏝に漆喰をのせることすらできない状態であったが、なんとか1人1作品完成させることができた。
- ② **ワークショップ+ Café** 東京工科大学の御幸朋寿氏を講師に招き、和紙の折り加工を用いた照明器具を制作した。参加者は子供を含む地域住民11名で、和紙を折り込む細かく根気のいる工程に苦勞しながらも、個性的で美しい照明器具を完成させた。学生は、必要なところを随時サポートし進行を円滑にすると同時に、共同作業を通じて自然と会話が生まれ、世代を超えた交流を楽しむ様子が見られた。同時開催のCaféでは庭先にこれまでに制作してきた家具を配置し、水出しコーヒーとお茶菓子を提供した。
- ③ **地域資源活用** 須坂には様々な地域資源があるが、今回は毎年行われている地域住民との郷土料理を囲んだ会食で「箱膳」体験をした。箱膳とは木箱の中に碗や皿が入って

おり、食事の際には上蓋をひっくり返した上に食器を並べ食台として利用する。昔は学校に入学する歳になると自分の箱膳をもらえたことや、食事が終わると白湯を注いで漬け物で碗をきれいにする作法は水が貴重だった時代の知恵であったことなどの話を、実際の食事をしながら経験できる貴重なひと時となった。

3. 今後の展望

便利な生活に慣れ切った学生たちは、自分たちが動かなければプロジェクトはおろか食事や寝床も整えられない環境に初めは戸惑っていたが、徐々に自ら率先して行動できるようになっていく姿に、このプロジェクトを学生と共に実施する教育的な重要性を強く感じた。

今後も産学官民が連携して、共に行える活動、場所づくりを思考して行きたい。更に、学生が企画などに積極的に参加できるように仕組みづくりを検討したいと考える。

謝辞：古民家所有者、須坂市役所をはじめとする地域住民の多くの方々のご協力に心から感謝申し上げます。

03 新宿区 中井・落合活性化プロジェクト「染の小道」

— 小さな街を「染」でうめつくす三日間 —

■ 染織研究室
瀬藤貴史、角谷彩子、森田和子
参加学生：コラボレーション科目「染色技法の継承と地域社会 2024」履修生



デザインを熟考中



染色準備：生地張り工程



サイズや技法を検討する

1. 事業概要

江戸時代より染色産業の中心地だった新宿中井・落合地域では街の特殊性を活かし、店舗に染め暖簾をかけて街中

を彩るイベント「染の小道」を開催している。本学染織研究室では2010年度より暖簾制作以外でも様々な形で参加し、学生が地域の中での役割を考える機会を作ってきた。

2. 2024年度取り組み

2024年度は、2025年2月21日～23日に開催された。本学からは「染色技法の継承と地域社会 2024」を履修する学生が作家として、「街のギャラリー」の暖簾を制作した。

担当した店舗は、どこか懐かしさを感じさせる居酒屋。暖簾をくぐる瞬間がわくわくする暖かい作品になるよう、デザインから染色、縫製までの全ての工程を行った。店主や来店客の様子を思い浮かべながら、店舗のために責任を持って最後まで制作することの重要性を学んだ。

3. 振り返り

本年度よりコラボレーション科目にしたため全学部から参加が可能となり、地域や伝統工芸に興味のある学生が多く携わる事ができた。一方で染織系実習授業が無い学部の学生もおり技術や知識面で学生間に差があったが、高い目標を持って互いに助け合う様子が見られた。居酒屋を通して、染色と地域に住まう人との係わり方を実践で学ぶことができた。

04 重要無形民俗文化財 相馬野馬追の旗指物制作について

継承する侍の伝統 旗指物の染色制作

■ 染織研究室
瀬藤貴史、角谷彩子、森田和子
参加学生：コラボレーション科目「染色技法の継承と地域社会 2024」履修生

1. 事業概要

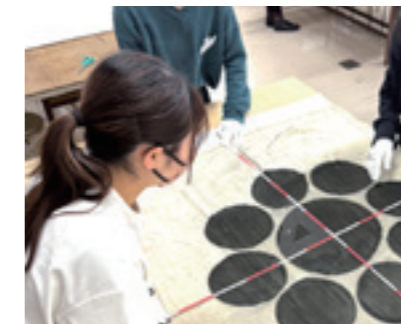
国指定重要無形民俗文化財「相馬野馬追」は、永く地域の人々により、守り継承されてきました。しかし、近年の社会的状況は伝統行事を支えるための技法材料・人材に影響を与え、技術の保存、継承など厳しい状況が続いています。そこで、行事に実際に用いられる旗指物の調査、制作を通して伝統技法と地域における歴史的文化を学び、文化継承のための考え方を学びます。

2. 2024年度取り組み

今年度は、2025年2月のコラボレーション科目として開講されました。実際に用いられた旗指物から調書を作成し、記録を残すことから始めます。このような記録の集積が、地域文化の維持や伝統の継承に役立つことを体験します。調査された旗指物は、5月に開催される相馬野馬追で実際に使用される予定であり、学生自身の作品制作や自身の進路を考える選択肢を増やすきっかけになるでしょう。

3. おわりに

実物調査は、グループでおこない、それぞれが役割をこなしながら一つの旗指物を制作する一部を担います。現在使用されている旗指物を調査し、使用者、継承者、地域文化の関係者など、一つの制作物には多くの人々や組織が関わっていることを学びます。表現という自由を求めるとは、作品を制作する上でも技術と責任が伴うことを理解し、学生一人、一人にとって今後の活動につながることを期待します。



実物計測



皮革を用いたチチ制作

05 プロの役者や声優を起用!オリジナルムービーコンテンツの企画・制作

芸能プロダクションと連携したメディア制作

■メディア・映像研究室 屋間行雄、牧野昇、荒井知恵
対象学生：メディア映像クリエイションコース4年50名



授業公開での作品プレゼンテーション

1. 概要

芸能プロダクション「合同会社 MYSTAR」との連携による、オリジナルムービーコンテンツ（ショートムービーやプロモーションキットなど）を企画・制作しました。

2. プロセスと内容

本授業では、まずオリジナルのストーリーを複数用意し、それを基本にして本編である映像とそのプロモーションコンテンツを総合的に企画・制作する6つのグループ（3つのアニメーショングループと3つの実写制作グループ）を立ち上げました。

次に提携先である「合同会社 MYSTAR」所属の役者や声優を起用することを前提に、各グループがオリジナルのストーリーをもとに脚本を手直し完成させます。

アニメーション制作担当は全ての班が制作手法としてデジタル2D手描きを選択しました。グループ内でキャラクターデザインや線画、彩色などの役割を分担し、Googleドライブ等を介して制作中のデータを共有しながら制作を進めました。脚本はオリジナルからさらに独自にキャラクター観を膨らませ、アレンジした最終稿を声優さんへ届けました。アフレコは制作メンバーがスタジオへ出向き、声優にその場で指示出しやトーンの確認などをしながら収録を行いました。

実写映像制作担当は、出演者の俳優と何度もオンラインでやり取りをして役のイメージを共有し、衣装や小道具を準備しました。劇中で壊れるカメラのレンズを3Dプリンターで作成したり、学内の研究室を模様替えして警察署に見せるなど様々な工夫を凝らして、各チームとも撮影に入



スタジオでのアフレコ風景



プロモーション担当による各グループのポスターとパンフレット



撮影時のシナリオ、演出確認



実写グループの撮影風景

りました。描いた絵コンテを元に俳優への演出と、撮影・録音の技術スタッフの学生への指示を監督の学生が行い、画面作りを決めて撮影を進めました。撮影後の編集や仕上げもチーム内で分担し、テロップ制作や音響作業を行って作品が完成しました。

各グループのプロモーション制作担当は映像制作担当と連携をとりながら、取材や記録を行い、パンフレットやポスターを企画し、試行錯誤を重ねながらデザイン・レイアウト作業、および校正を行いました。最終的には外部の印刷所に入稿し完成しました。

最終プレゼンテーションは授業公開とし、たくさん的高校生や保護者の方に制作したムービーやコンテンツを上映、展示しました。また、文化祭では教室をシアターにして多くの来場者に作品をアピールすることができました。



演出のプロによる声優演技指導



作品①「ターゲットはシークレットガール」

(実写映像 13分3秒、パンフレット、ポスター)
アジアのナムマイ王国の王女が訪日したが、宿を抜け出し、向かった先は、ファッション誌「装美」のスタジオ。その編集長とカメラマン富良野は王女と気が付くが、本人には内緒にしてモデルとして撮影して表紙に掲載してしまおうと企む。



作品②「卒研エクステンジ」

(実写映像 10分50秒、パンフレット、ポスター)
卒研でドラマ作品を制作している男子学生大島とアニメ作品を制作している女子学生りつとの葛藤と心の交流を描く。



作品③「予知の羽ばたき」

(アニメーション 2分4秒、パンフレット、ポスター)
舞台は朝。女子高生のツバサのアパートのリビング。ツバサが朝の支度をしていると、ベットのインコが鳴き声をあげる。



作品④「ひまわりと見た夢 バージョンA」

(アニメーション 2分、パンフレット、ポスター)
アサヒは夏休みに病弱な母と一緒に森のペンションに遊びに来た。アサヒはそこで出会ったミュウと打ち解けようとするが…



作品⑤「同じ穴の貉」

(実写映像 4分55秒、パンフレット、ポスター)
某所轄警察署の刑事、中村と藤原はペアで、暴力団龍神会の事件を追っていた。藤原はタレコ屋を利用して、龍神会のチンピラを多数逮捕するが、幹部には逃亡されてしまう。



作品⑥「ひまわりと見た夢 バージョンB」

(アニメーション 3分28秒、パンフレット、ポスター)
アサヒは夏休みに病弱な母と一緒に森のペンションに遊びに来た。アサヒはそこで出会ったミュウと打ち解けようとするが…

06 第17回 学生ネクタイコラボレーション展

産学連携企画：東京ネクタイ協同組合

■ 染織研究室 岡本泰子、遠藤樹
 参加学生 デザイン画部門：「ソフトマテリアル」履修学生（課題として）
 クリエイティブ部門：染織研究室担当科目を履修する希望者



審査風景 (学内) デザイン画部門

1. 事業概要

東京ネクタイ協同組合との連携による、ネクタイ振興や若い感性の発掘を目的としたプロジェクト。2008年より継続し、2019年度からはネクタイのペーパーデザインを競う「デザイン画部門」、ネクタイ生地や既に縫製されているネクタイ（素材提供：成和株式会社）をリメイク・装飾する「クリエイティブ部門」（旧「デコタイ部門」）の2部門開催となった。応募作品は東京ネクタイ協同組合が審査し、各部門別に賞を定める。2017年度の第10回記念展以降は大学からの賞を新設した。



審査風景 (組合)

2. 2024年度の取り組み・今後の展望

デザイン画部門は造形学部デザイン・造形学科1年科目ソフトマテリアル履修学生を対象に授業内で取り組む形で実施し、クリエイティブ部門では染織研究室担当科目の履修学生（造形学部外の学生含む）を対象として作品を募集した。

審査会の様子は東京ネクタイ協同組合のHPで紹介の上、クリエイティブ部門の作品展示は同年度の本校文化祭で行った。デザイン画部門の応募作品は、動画にまとめたものを誌上リンク先より視聴が可能である。

第16回まで「デコタイ部門」としていた名称を「クリエイティブ部門」へ変更することで、例年以上にさまざまなアプローチで取り組んだ作品が確認できた。今後もネクタイに関わる視点を軸とした垣根を跨いだ多様な発想が展開することを期待する。



作品展示 (文化祭) クリエイティブ部門



【東京ネクタイ協同組合和田匡生理事長より】

今回はデザイン画部門で「Gift for you ～大切な人につけてほしいネクタイ～」、クリエイティブ部門で「Recreate ～ネクタイを使った新しい創作～」をテーマとして多くの作品をご応募いただき、非常に審査のしがいがありました。第17回目を迎える今回の募集では、デザイン画部門で133点の応募作品から7点、クリエイティブ部門ではパリエーションあふれる14点のうち4点が組合からの授賞という結果になりました。昨今のネクタイを取り巻く厳しい環境の中、自分達ならこのようなネクタイが欲しいと編めてみたいプレゼントしたいという、皆さんの自由な発想・アイデアで表現された作品は、我々業界人にとって毎回大きな刺激になっております。改めて東京ネクタイ協同組合の組合員一同を代表して感謝を申し上げます。今後も皆さまが社会へはばたき様々な分野でご活躍されることを祈念いたしまして、今回の調評とさせていただきます。

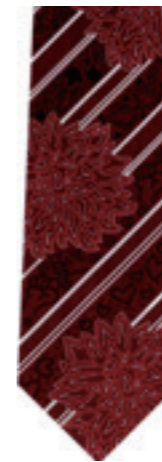
デザイン画部門



デザイン画部門
優秀賞



デザイン画部門
佳作



デザイン画部門
佳作



デザイン画部門
佳作



デザイン画部門
佳作



デザイン画部門
佳作



デザイン画部門
佳作



デザイン画部門
造形学部賞



デザイン画部門
造形学部賞



デザイン画部門
染織研究室賞

クリエイティブ部門



クリエイティブ部門
最優秀賞



クリエイティブ部門
優秀賞

ネクタイコラボレーション展 受賞者

デザイン画部門受賞者

テーマ：「Gift for you ～大切な人につけてほしいネクタイ～」

賞	作品名	氏名	所属
優秀賞	猫寝方図鑑	戸坂 美希	造形学部 デザイン・造形学科 1年Cクラス
佳作	HOME	惣山 陽菜	造形学部 デザイン・造形学科 1年Aクラス
佳作	バビバ	五十嵐 美璃	造形学部 デザイン・造形学科 1年Aクラス
佳作	ふるさとの友へ	清水 紗来	造形学部 デザイン・造形学科 1年Bクラス
佳作	溶けるくらい愛よ	鶴野 心音	造形学部 デザイン・造形学科 1年Bクラス
佳作	MEMORY	東堂 考修	造形学部 デザイン・造形学科 1年Bクラス
佳作	ほっと息、ほっとけき。	藤野 空未	造形学部 デザイン・造形学科 1年Bクラス
造形学部賞	鶴のご縁	岡野 明日香	造形学部 デザイン・造形学科 1年Aクラス
造形学部賞	Swimming eel	滝澤 咲	造形学部 デザイン・造形学科 1年Cクラス
染織研究室賞	あなたに、	小森 菜奈	造形学部 デザイン・造形学科 1年Aクラス

クリエイティブ部門受賞者

テーマ：「Recreate ～ネクタイを使った新しい創作～」

賞	作品名	氏名	所属
最優秀賞	surpass	小森 菜奈	造形学部 デザイン・造形学科 1年Aクラス
優秀賞	カメレオン	間中 咲羽	造形学部 デザイン・造形学科 4年ジュエリー・メタルデザインコース
佳作	ショルダーバッグ	伊藤 心	造形学部 デザイン・造形学科 3年ジュエリー・メタルデザインコース
佳作	パラサイト	田中 大智	造形学部 デザイン・造形学科 2年Dクラス
造形学部賞	推し活ロゼット	伊藤 愛莉	造形学部 デザイン・造形学科 2年Aクラス
染織研究室賞	回顧	石井 菜摘	造形学部 デザイン・造形学科 3年ジュエリー・メタルデザインコース
染織研究室賞	純粋	榎原 悠菜	造形学部 デザイン・造形学科 1年Bクラス

デザイン画部門
応募作品
動画リンク



東京ネクタイ
協同組合HP



07 デコブラインドコンペティション

株式会社ニチペイとの産学連携企画

■ 建築・インテリア研究室 曾根里子、丸茂みゆき
 基礎造形研究室 松村由樹子
 取り組んだ学生：プロジェクトゼミナール科目履修者
 デザイン・造形学科、建築・インテリア学科 1～4年



デコブラインドコンペティション受賞学生



ニチペイの方からアドバイスを受ける



最終プレゼンテーション

1. 事業概要

ブラインドの老舗メーカーである株式会社ニチペイとの産学連携企画です。学生がオリジナルデザインのブラインドを考え、マスキングテープやカッティングシートなどで実物をデコレーションし、窓まわりやインテリアを演出する「デコブラインド」作品として制作・発表します。使用するブラインド本体はニチペイの提供によるものです。2017～2019年度はカフェのブラインドを共同制作、2021～2024年度は個人制作として取り組みました。

2. 2024年度の取り組み

造形学部1～4年生の「プロジェクトゼミナール」科目として5～9月に実施し、デザイン・造形学科4名、建築・インテリア学科6名、計10名の学生が参加しました。

最初にニチペイの方からブラインドや窓に関する講義を受け、デコレーションの手法や、作品の評価ポイント等を理解した上で、制作を進めていきます。ブラインドの設置場所は学生各自が選定し、実際の空間や使用者に合わせてコンセプトを設定、デザイン案を検討します。

6月には中間プレゼンテーションを行ってニチペイの方



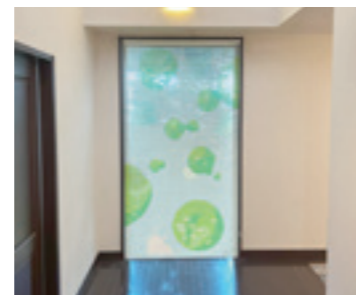
最優秀賞 根本 瑠奈 (インテリアデザインコース4年)

からアドバイスをいただき、ブラインド製品の種類やカラーを決定して発注。7月から9月にかけては、届いたブラインドを実際に窓に設置し、実物の大きさや色、デコレーション素材、インテリアとの関係なども考慮して制作を進めます。制作中はオンラインも併用して授業を行いました。

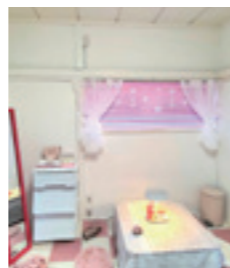
9月の最終プレゼンテーションでは、審査員であるニチペイの方やインテリアの専門家に向けて発表を行い、最優秀賞1名、優秀賞2名、インテリアビジネスニュース賞1名が選出されました。取り組み内容は、ニチペイのWebサイトやインテリアの業界誌で発信されています。また、例年行っているニチペイのショールームも見学させていただきました。今年度は、ブラインド自体のデザインにとどまらず、使う人の希望やインテリアとのコーディネートを重視した学生作品がみられ、審査員の方々にもご好評をいただきました。



優秀賞 小見山 海翔 (インテリアデザインコース3年)



優秀賞 川野 志帆海 (グラフィック・プロダクトデザインコース3年)



インテリアビジネスニュース賞 関野花菜 (デザイン・造形学科1年)

公益法人二科会主催「第108回二科展」

入選 鶴岡 翠 (メディア映像クリエイションコース4年)



鶴岡翠「消滅」

「第108回二科展」の「彫刻部」において鶴岡翠さんの自由制作の木彫作品が昨年に引き続き入選をはたしました。作品は国立新美術館に展示されました。

AJC クリエイターズコンテスト2024

特別奨励賞 相田化学工業賞 MA LINING (マレイネイ) (ジュエリー・メタルデザインコース2023年度卒業生)

佳作 ZHOU MENGXUE (シュウ ムセツ) (ジュエリー・メタルデザインコース2023年度卒業生)
 入選 DU YUSHAN (トウサン) (ジュエリー・メタルデザインコース2023年度卒業生)

AJC クリエイターズコンテストは、現代社会で求められる価値観を投影できるストーリー性と、工業製品では実現できない個性的な表現を生み出す「手仕事力」を持つ人の活動を広く世の中に伝えることを目的に開催されています。



MA LINING「刺魔共鳴」

第52回 伝統工芸日本金工展

21+部門入選 LI GUANQI (リ ガンキ) (大学院 生活環境学研究所 生活環境学専攻 2023年度修了生)
 我妻 優 (ジュエリー・メタルデザインコース2023年度卒業生)
 森 千裕 (ジュエリー・メタルデザインコース2023年度卒業生)
 大田 彩乃 (ジュエリー・メタルデザインコース2023年度卒業生)



LI GUANQI「異新フローチ」

「伝統工芸日本金工展」は、彫金、鍛金、鍍金等の金属工芸の作品を対象にその保存・継承・発表を目的とした公募展で、「21+部門」は30歳未満の作家を対象とした部門です。

2025年 巳年年賀状コンテスト

最優秀賞 WONG HIN KHAN (ウンヒンカン) (メディア映像クリエイションコース3年)

優秀賞 栗山 実悠 (グラフィック・プロダクトデザインコース4年)
 橋本 日菜 (グラフィック・プロダクトデザインコース4年)

佳作 三好 真央 (グラフィック・プロダクトデザインコース3年)
 緒方 美佑 (グラフィック・プロダクトデザインコース3年)
 太田 真帆 (グラフィック・プロダクトデザインコース3年)
 緒方 美佑 (グラフィック・プロダクトデザインコース3年)



WONG HIN KHAN作品

ネットスクウェア株式会社と本学のコラボ企画「2025年 巳年年賀状コンテスト」が行われ、Webサイトの受注枚数により受賞者が決定しました。

第57回 日本七宝作家協会国際展

奨励賞 LEE KAIRUNG (リ カイヨウ) (大学院 生活環境学研究所 生活環境学専攻 2年)

入選 伊藤 七海 (ジュエリー・メタルデザインコース2023年度卒業生)
 代 彩乃 (ジュエリー・メタルデザインコース2023年度卒業生)
 堤 友香 (ジュエリー・メタルデザインコース4年)
 納谷 桃果 (ジュエリー・メタルデザインコース4年)
 松本 悠那 (ジュエリー・メタルデザインコース4年)



リカイヨウ「Puma's adventure diary」

「日本七宝作家協会国際展」は、国内外の七宝作家や学生、一般から広く公募され、七宝工芸美術の向上と発展のため開催されています。

第33回 公募2024日本ジュエリー展

入選 大田 彩乃 (ジュエリー・メタルデザインコース2023年度卒業生)

公益社団法人日本ジュエリーデザイナー協会が主催する「日本ジュエリー展」は、国内外の文化・デザインの関係分野から高い評価を得るとともに、多くの優れた作家・デザイナーを輩出しています。



大田彩乃「curves」

第13回 OAC 学生広告クリエイティブアワード2024

グランプリ 橋本 日菜 (グラフィック・プロダクトデザインコース4年)
 準グランプリ 二宮 風歌 (グラフィック・プロダクトデザインコース4年)
 佳作 吉田 ふたば (グラフィック・プロダクトデザインコース4年)



橋本日菜作品

グラフィック・プロダクトデザインコースの4年生が「グラフィック・プロダクトデザインII B」の授業で公益社団法人日本広告制作協会主催のOAC学生広告クリエイティブアワードに取り組み、グラフィック部門のグランプリ、準グランプリ、佳作を受賞しました。



二宮風歌作品



吉田ふたば作品

銀茶会の茶席

- 平田京子賞** 川村 光希、小倉 大空、染谷 玲那人、平出 菜由佳、松浦 晃大 (建築デザインコース4年)
- 佐藤淳賞** 松本 大飛、山中 快、小野原 海星、田島 悠杏 (建築デザインコース4年)

日本建築学会が主催する『建築文化週間 学生グランプリ 2024「銀茶会の茶席」』において、造形学部建築・インテリア学科4年生の作品「竹影掃塔塵不動」と「Ephemeral-Permanet」が審査員賞(平田京子賞、佐藤淳賞)をダブル受賞しました。



佐藤淳賞を受賞した「Ephemeral-Permanet」 | 平田京子賞を受賞した川村さんチームと作品 | 「竹影掃塔塵不動」(ちくえいさいたいじんはらってちりどうせす)

第3回 全国学生絞り染織作品展 Shibori NEW BEAT

入選 星川 莉紗 (服装学部ファッションクリエイション学科4年)

一般社団法人ワールド絞りネットワークジャパンが主催する、全国の大学・専門学校から絞り染を用いた作品を募集、審査・展示を行う展覧会「第3回 全国学生絞り染織作品展 Shibori NEW BEAT」において、服装学部3年対象の染織研究室担当授業「テキスタイルデザインII」で取り組んだ作品が入選、横浜馬車道アートギャラリーで展示されました。



星川作品

The 7th NIF・YOUNG TEXTILE 2024

入選 納谷 桃果 (ジュエリー・メタルデザインコース4年)



納谷桃果「昇龍」

デザイン・造形学科3年次開講科目「テキスタイルワークB II」で制作した綴織作品が「第43回 JAPANTEX 2024(インテリアトレンドショー)」(東京ビッグサイト)会場内、一般社団法人日本インテリア協会(通称 NIF)主催によるインテリアに展開できる優れたテキスタイル作品を対象とした展覧会で入選・展示されました。

建築学縁祭 2024

優秀賞 小林 舞 (建築・インテリア学科2年)

入選 儀間 由子 (建築デザインコース3年)

「建築学縁祭2024～ Rookie選～」において、建築・インテリア学科の学生2名が受賞・入選しました。総合資格学院(株式会社総合資格東京都新宿区)が主催する「建築学縁祭」は、首都圏エリアで建築を学ぶ現役学生を対象とした建築設計イベントで、通常の授業で取り組んでいる設計課題を自主応募するコンテスト(～ Rookie選～)以外にも、教員や学生活動団体の参加ができるイベントが多数開催されています。



会場にて指導教員と受賞者

第78回新匠工芸会展

入選 太田 真帆、山口 きらり、山中 冴笑 (グラフィック・プロダクトデザインコース4年)



太田真帆「絳」



山口きらり「おちやめなおぼけ」



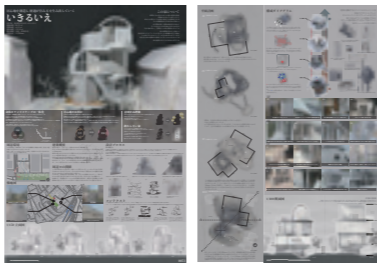
山中冴笑「舞」

デザイン・造形学科3年次開講科目「テキスタイルワークB II」で制作した作品が入選し、上野と京都で展示されました。

建築新人戦 2024 優秀新人賞 住宅課題賞 審査員賞 ダブル受賞

小林 舞 (建築・インテリア学科2年)

建築・インテリア学科2年生の小林舞さんが「建築新人戦2024」で「優秀新人賞」、「住宅課題賞」で審査員賞「青木 弘司賞」、「坂本一成賞」をダブル受賞しました。「建築新人戦」は、大学、短期大学、専門学校等の学生が課題で取り組んだ作品を対象とした日本最大規模のコンテストで、2024年度は1,100件を超える応募がありました。



小林さんの作品「いきるいえ」



建築新人戦2024公開審査授賞式



編集後記

文化学園は2023年に創立100周年という節目をむかえ、2024年から新たな歴史を刻みはじめました。未曾有の時代を乗り越えた学生たちは遅く成長し、さまざまなシーンで積極的に活動する様子が見られました。今年度の誌面は自主的な制作・発表の機会が増えたことで、特に学生の活躍に関するページが充実しております。これらを教育の記録としてご覧いただくと幸いです。

ご協力いただいた先生方、企業の方々、そして本学の今を新鮮に伝えるためのアイデアや企画をご提案くださった編集デザイナーの廣田さまにおかれましては心より感謝申し上げます。

造形学部年間教育活動報告集編集委員
岡本泰子

文化学園大学 造形学部年間教育活動報告集 2024

● 造形学部専任教員

- | | | | |
|-------|-------|------|------|
| 安高信一 | 荒井知恵 | 岩塚一恵 | 遠藤樹 |
| 大関徹 | 岡部隆信 | 岡本泰子 | 奥村誠一 |
| 押山元子 | 角谷彩子 | 嘉松聡 | 加茂幸子 |
| 北浦肇 | 北岡竜行 | 黒沼麻帆 | 澤田志功 |
| 七里真代 | 白井信 | 瀬藤貴史 | 曾根里子 |
| 高橋正樹 | 谷口久美子 | 種田元晴 | 趙晟恩 |
| 鳥海薫 | 成井美穂 | 春田幸彦 | 久木章江 |
| 昼間行雄 | 深田雅子 | 藤澤英恵 | 牧野昇 |
| 松村由樹子 | 丸茂みゆき | 水谷奈央 | 森田和子 |
| 山崎裕子 | 山田拓矢 | 吉川ひろ | 渡邊秀俊 |
| 渡邊裕子 | | | |

● 造形学部年間教育活動報告集編集委員

- 谷口久美子 岡本泰子
安高信一 加茂幸子



● 写真提供

- 三守敬次 鈴木義明 岡本大祐 アイキ元

● デザイン hirotas / 廣田武志

- 発行：2025年3月11日
● 発行者：文化学園大学造形学部 渡邊秀俊

〒151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1
TEL. 03-3299-2310 FAX. 03-3370-6202
https://bwu.bunka.ac.jp

※本誌に掲載されている作品・写真等の無断利用、複製を禁じます。

文化学園大学

造形学部 デザイン・造形学科 建築・インテリア学科

〒151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1

TEL. 03-3299-2302 (造形学部長室)

<https://bwu.bunka.ac.jp/index.php>

